

家庭医・かかりつけ医のための血液疾患エッセンス 血液疾患と聞いただけで逃げていませんか？

日時：平成23年9月4日（日）10：00～15：00

講師：伊藤 良和 東京医科大学 内科学第一講座（血液内科）准教授 場所：機械振興会館

連続受講セミナーの2日目、東京ではすっかり台風の影響もなくなった9月4日東京医科大学 内科学第一講座（血液内科）准教授の伊藤良和先生を講師に迎え、前日に引き続き東京都港区の機械振興会館において「家庭医・かかりつけ医のための血液疾患エッセンス」をテーマにMHS医学臨床セミナーを開催いたしました。

一般内科の先生も血液疾患を診る機会は増えてきます！

冒頭、伊藤先生からショッキングな話が飛び出しました。現在血液内科の専門医の数が減少してきており、大きな病院でも血液内科の病棟を閉めるとの話があるようです。それに反し、血液の患者は増えてきており「一般内科や家庭医の先生にはなじみのない分野かも知れませんが、このままでは血液内科の専門医だけが診るのではなく一般内科の先生も血液疾患を診る機会が増えてくると日ごろ感じています」とのことでした。

血液疾患のマネジメントは感染症と貧血のマネジメントだと伊藤先生はおっしゃいます。

貧血の患者は一般内科や家庭医のところにもよく来院されると思います。貧血はMCV（平均赤血球容積）をチェックする必要があります。小球性貧血であれば「鉄欠乏性貧血」「慢性炎症に伴う貧血」は一般内科でも診療可能な疾患であり、ぜひ進んで血液疾患の勉強をしてほしいと思います。

鉄欠乏性貧血は原因の多くが慢性の出血です。慢性的におきる出血が鉄欠乏を起こし、ヘモグロビン合成障害を引き起こして小球性貧血となります。出血部位の多くは①消化管②女性性器ですので、男性と閉経後の女性で鉄欠乏性貧血の疑いは特に注意が必要とのことです。

真性赤血球増加症の治療方針などは血栓危険因子の回避として、喫煙、高血圧、高脂血症、肥満が必要で、これらはいずれも一般内科や家庭が日ごろから健康指導している項目かと思えます。

血液の病気で特に早期に除外・発見すべきものは白血病だと思います。白血病の15～20%を占めるCML（慢性骨髄性白血病）は、以前は不治の病と言われておりましたが1998年ごろを境に治療技術が進み死亡率が急減してきております。



血液疾患のプライマリケア的対応を語る伊藤先生

最近の国立がんセンター発表の資料では2000年以降、高齢者の白血病死亡率が著しく急増しております。二次性白血病の頻度が高く患者側も臓器機能が低下し併存疾患が多くなっているようです。

ぜひともプライマリケア医でできる貧血の診断や治療技術を高め、超高齢化社会の到来により高齢者の白血病が増加していけば必然的にそのような患者を診る機会が増えてまいります。

ぜひ血液疾患の診断・治療について知識を深めていただきたいと思います。

次回セミナーは9月11日、すみだ産業会館で池尻好聰先生と服部陽輔によります『実習！ゼロからの筋骨格系診察シリーズ「肘」「足関節」』をテーマに開催いたします。